

クラス道徳「友達 は ライバル」

・・・あらすじ・・・

小学校のミニバスケットボールクラブで練習に励んできた「僕」と康夫。二人は同じ中学に進み、バスケットボール部に入ります。強豪の部活動での練習は厳しいものでしたが、共に練習をがんばります。そのうち康夫はぐんと背が伸び、どんどん技術も上達します。そんな康夫を妬ましく見ている自分に気づく「僕」。2年生になり、試合のメンバーが発表され、康夫だけメンバー入りします。部活を辞めたくなくなった「僕」ですが、康夫におまえがいなかったらバスケを続けられなかったと言われ、互いに相手の存在が大きいということに「僕」は気づきます。次の試合では、康夫と共に試合に出場しようと「僕」は誓います。



・・・

ほとんどの人は、いっしょに強くなる、競い合える相手、

ライバルがいないと、だんだん、だらけてくる。

叱ってくれる人いるだけでも、また違うけれど、叱る人がいなくなれば、気が抜ける、(松下幸之助)

みんなの感想

- ・この一件を終え、友達はお互いに成長し合える、そんな存在だと思いました。成長の中には必ず誰かがいる。そんなことが改めてわかった。色んな感情をもてる。それも友達じゃないかと考えた。(Aさん)
- ・友達は、時に支え合い、励まし合える仲だと思っています。けんかをしても仲直りできたり、そういう仲だと私は思います。一緒にいて楽しい人も友達ではあるけど、親友になれない。(Tさん)
- ・お互いに尊重し合っていて時にライバルであり助け合える存在。この人といたら、一生懸命頑張れると思えるような人。(Wさん)
- ・友達はただ仲が良いだけでなく、互いに向き合って支え合って、高め合って、ぶつかり合える存在だと思いました。(Oさん)
- ・友達はどちらかが困っている時に、手を差し伸べられる人のことを言うと思う。いいように使って、使われる関係では友達とは言わない。支え合って本音を言い合えるのが本当の友達だと思う。(Tさん)
- ・自分が「僕」と同じ状況になって、「もし、お前がいなかったら…」とか言われたら、もっと憎らしく思う。けども、その言葉を素直に受け止めた「僕」はすごく良い人だと思った。(Uくん)

あなたなら、何と声をかけられたら、素直に受け止められるだろうか？

- ・友達は仲が良く、気軽にしゃべれる相手で、その中でもライバル心や競い合ったりすることが大切だと思った。友達は一生過ごすときに大切な存在だと思う。(Uくん)
- ・友達の中にも憎しみとかもあり、それでも信頼できたり、ライバルだったりするのが「真の友達」だと思った。(Nくん)
- ・自分にとっての友達は、「－」の感情や「＋」の感情ももてるのが友達だと思う。憎しみとかの感情は、一緒に練習してきたからこそもてる感情だと思う。(Mさん)
- ・友達は互いに支え合って共にライバルとして伸びていくような関係の存在だと僕は思った。互いに足を引っ張るのは、本当の友達じゃないと思う。(Hくん)

本当の意味で「友達」という存在は、どんなものだろうか？